

1

二見町『夫婦岩表参道』整備におけるPI (Public Involvement) 設計

望月章好

MOCHIZUKI Akiyoshi

株式会社 長 大/名古屋支社/計画技術部門プロジェクトマネージャー



二見町は、伊勢志摩国立公園の玄関口に位置し、遙か昔、倭姫命(やまとひめのみこと)がこの地を訪れた時、あまりの美しさに二度も振り返り見たので「二見」と呼ばれるようになったという伝説があり、古くから景勝地として親しまれている町である。

この二見町のシンボルである夫婦岩の日の出は、全国的に有名であり、「二見浦の清き渚は、伊勢神宮に参拝する人々が心身のみそぎをした場所」として知られ、日本初の海水浴場という貴重な歴史を持つ町でもある。

だったが、近年の観光客入れ込みを見ると、平成5年をピークに徐々に減り始めており、平成10年には、平成5年の7割近くまで落ち込むなど、下降傾向を示している。

地元の人々は、今もなお、往時の面影をそのまま残す旅館街や土産物屋が軒を連ねる町に、観光客の賑わいが戻ってくることを強く願っている。

このような状況の中、二見町では、もう一度かつての賑わいを取り戻すべく、平成9年度から平成12年度にかけての4年間、地元の有志によって構成される「二見浦まちづくり検討協議会」と協働で「二見町HOPE推進計画」を作成し、まちづくりの基

近隣には、二見シーパラダイスや伊勢戦国時代村等のアミューズメント施設が整い、観光スポットが多く存在する地域でもある。

伊勢神宮のみそぎの浜として、観光客で賑わった二見町であ



写真1-夫婦岩



図1-二見町の位置



図2-二見町周辺の観光スポット等

本的な方向性について検討を続けてきた。

初年度は、夫婦岩表参道(旅館街)のまちなみ保全と活性化を目的とした検討が行われた。2年目は、より具体的な取組みの方向性を明確にするため「歴史的なまちなみを活かした住まいと店をつくるための手引き書」、「二見浦旅館街道路修景プラン」、「二見浦のまちなみにおける案内誘導に関する提案」についての検討が行われた。3年目は、これらに加え、「モデル住宅修景プラン」、「空き店舗活用プラン」が検討され、4年目には、さらに具体的な手法として「夫婦岩表参道まちなみ指導要綱(仮称)」の検討が行われた。

こうした、これまでの検討を踏まえ、「二見町HOPE推進計画」の実現に向けた取組みが始動した。

1—まちなみのイメージ

二見町のまちなみのイメージとし

て、「二見町HOPE推進計画」でも掲げられていた、

“茶屋再生”
～そぞろ歩きの似合うまち～
昭和初期のイメージを再生する

をメインテーマに、ハード面の整備とソフト面の整備に取り組む方針とした。

2—当社の役割

当社の役割は、ハード面の整備である実施設計であり、平成14年8月から着手した。

数年、検討されてきた、「二見町HOPE推進計画」が具体化する、最終の設計であるため、地元住民、委員会の方々との説明、協議を繰り返し、慎重に進めることとなった。

3—道路の修景プラン

道路の修景プランとして、海側の公園を含めた歩行空間や、街中の

散策コースにもなると考えられる世古道の活用に向けた整備、街路灯の設置や植栽の整備、電柱の移設及びカラー電柱化、地区全体を捉えた道路の修景を行うこととした。

さらに、当該地区周辺に位置する夫婦岩、音無山、JR二見浦駅や総合駐車場の施設や各種資源をつなぐ道路についても、歩行者と自動車の両者の利便性に配慮しながら、舗装整備やサイン・案内板の設置等について詰めていくものとした。

主な取り組み内容は、以下の2点である。

ア. 道路修景イメージの検討 イ. 道路の設計

4—PI(住民合意形成)設計

実施設計を行うにあたり、地元住民及び委員会との対話を繰り返し行い、理解を得るとともに積極的な意見を取り入れながら、合意を図っていく「PI設計」を実施した。

表1-取り組みメニューとスケジュール

区分	事業名	取り組みのメニューと内容	取り組み想定期間				
			2002年 (H14)	2003年 (H15)	2004年 (H16)	2005年 (H17)	2006年 以降 (H18)
ハード整備	道路の修景プラン	道路修景イメージの検討 ・住民参加による検討(舗装、街路等の素材や意匠的な検討) ・道路および沿道の維持管理、活用に関する検討)	住民参加による検討(調研・意見等)(調研管理期)	住民参加による検討(調研・意見等)(調研管理期)			
		道路の設計	実施設計				
	道路の施工						
	住民参加による道路維持管理・活用						
	世古道や海側の動線の検討		住民参加による検討				
	夫婦岩、音無山、駅、駐車場等の各種施設・資源をつなぐ道路の整備		住民参加による検討				
施設の整備プラン	買日館の保全と活用						
	ホテル浦島等の跡地及び二見バスセンターの活用						
	修学旅行の写真等を展示した記念館の開設						
	まちなみ修景に向けた助成制度等の創設検討						
ソフト対策	町外へのPR	二見町をPRするパンフレット等の作成					
	町内へのPR	「HOPE計画」及び空間快適性向上検討等についてのPR					
	観光関連事業者及び地域住民への啓発	観光関連事業者及び地域住民の観光振興に対する意識啓発					

対話集会での主なテーマは、
 ①幅員構成の検討
 ②舗装材の選定(舗装パターン)
 ③側溝の種類検討
 ④案内板(サイン)の検討
 ⑤照明灯の検討
 等であった。

地元住民対話集会及び委員会対話集会では、活発な意見が出され、「より良い物を作っていきたい」、「ただし、極力、町の財政を圧迫しないものを」とトレードオフの要求を受け、バランスを取ることに細心の注意を払った。

5—検討結果

●1 幅員構成の決定

幅員構成に関しては、路肩部を歩道にするべきか、路肩とするべきかの議論が行われた。

結果として、車道と歩道としての区分を行わず、車道部と路肩部分に分け、舗装の種類を変え、導線を確保することとした。

●2 舗装材の選定

舗装材については、景観上、「石畳風」を意識したものが基本とされた。さらに耐久性(歩道設置を行わない当該路線において車輛交通に耐えられるものが条件。)及び経済性を考慮した材料の比較を行い、検討委員会での協議の結果、自然石の風合いを持つ擬石ブロックを用いることとなった。

また、このブロックを舗装材として用いるのは、経済性を考慮して路肩部分のみ(車道は通常のアスファルト舗装)とすることを基本とした。(但し、景観性が重要な一部区間については全面ブロック舗装とした。)

●3 側溝の種類検討

基本方針を基に検討委員会で協議した結果、景観性及び経済性の面から種類を統一し、全区間を自由勾

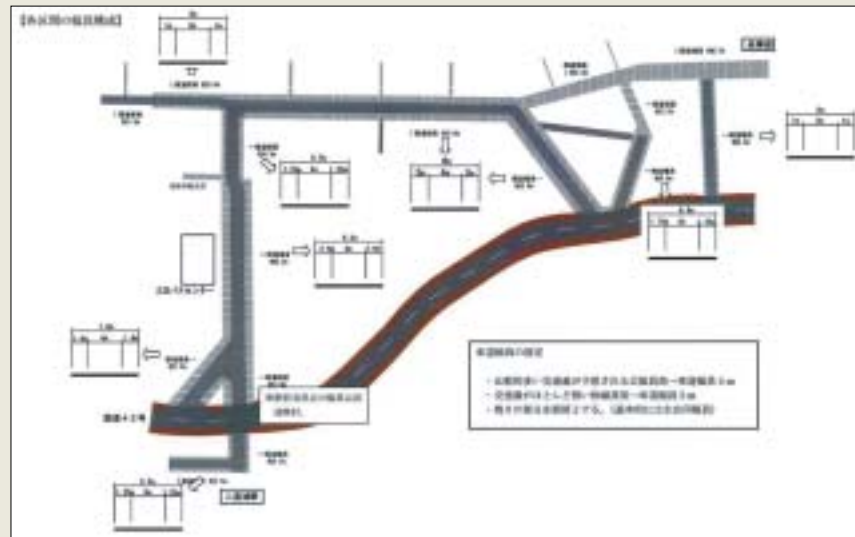


■図3—道路の修案プラン



■写真2—当社説明風景

■写真3—地元住民対話集会



■図4—幅員構成

配側溝とする計画とした。

●4 案内板の検討

今回新たに設置する案内板は、シンボルサイン、総合案内板、誘導案内板(車両用、歩行者用)であり、それぞれにおける設置の基本的な考え方は以下のとおりとした。
 シンボルサイン：シンボルとして主

要な入り口付近に設置。

総合案内板：主要施設および駐車場に設置。

誘導案内板(歩行者用)：歩行者のための誘導案内として入り口付近や交差部分に設置。

誘導案内板(車両用)：主に駐車場への誘導として駐車場付近に設置。



■写真4、5、6—委員会対話集会

●5 照明灯の検討

① 電柱の撤去移設について

電柱については、景観的な面から現在旅館側にある中電柱を撤去し、反対側のNTT柱と統合する計画とした。(中部電力による試設計により移設は可能とされた。)

② 照明灯について

照明灯は電柱の撤去移設に併せて行うこととした。

設置はスペースのことを考慮し、電柱撤去側にはポール型の照明を設置、移設側には電柱に添加することを基本とした。

6—まとめ

今回の設計では、町と地域住民による十分な話し合いが行われる中で、最終の実設計段階から参加する形となった。

住民の合意を得ながらの実設計となったが、それまでの期間において、町が根気よく委員会等への対話を続けたことにより、我々は、ゼロからのスタートではなく、設計を進めていく上でもスムーズな合意が図れたと考える。

今の時代、国や自治体が一方的に事業を進め、地元の説明するだけ

の押付け的な考えでは合意は図れない。

我々建設コンサルタントは、計画段階、企画段階から一貫して携わることで、住民一人一人の「町を良くしたい」という願いに応えられる仕事ができるものとする。



■図5、6、7、8—当社作成走行シミュレーション(CG)